

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1141								
2. 授業担当教員	佐々木 達行										
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。 										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予め教科書を読むなど、講義内容を予習し、内容について問いを持ったり、質問ができるようにしたりして授業に臨むようにする。 ○ 毎回の講義内容の記録、実技、演習作品等を記録してファイル (A4) にまとめ、ポートフォリオとして提出する。 ○ 学習の成果を課題レポートとして提出する。 										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 佐々木達行『造形教育における授業の課題・目標と評価』開隆堂出版。</p> <p>【参考書】 特になし。</p> <p>【WEB 検索教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉大学第教育学研究紀要 佐々木達行 「造形, 美術教育における幼児・児童の表現様式の意味と美術の表現様式との関係」 https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/104438/S13482084-65-P137-SASA.pdf ・千葉大学第教育学研究紀要 佐々木達行 「造形要素から捉えた造形発想の方法」 https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/900116861/13482084_61_327.pdf 										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。(学習目標 1・2) 2. 子どもの造形表現の特徴に関する基礎的な知識が身につけられたか。(学習目標 3・4) 3. 子どもの造形活動を支える上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。(学習目標 5) <p>○評定の方法</p> <p>授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>4. 課題 (作品発表、レポート等)</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加	総合点の 20%	2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 30%	3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の 30%	4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の 20%
1. 授業への積極的参加	総合点の 20%										
2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 30%										
3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の 30%										
4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の 20%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>講義内容は皆さんが目指している教師としての専門性を高めるためのものである。講義内容を予習しておき、分からないことがあれば質問したり自分の考えを述べたりするなど自主的、積極的にに関わり、理解を深めていくこと。講義は、知識や技術を与えてもらうだけのものではなく、自分で勝ち取るものである。それは自分に自信が持てるようになること、教師としての誇りを培っていくことにつながっていくはずである。</p>										
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	オリエンテーション 授業の受け方、内容、方法、準備等について	事前学習	教科書を通読しておく								
		事後学習	記録帳、材料、用具、ファイル等の準備、確認する。								
第 2 回	造形教育の表現・鑑賞内容の意味 (理論) / 自分マーク (演習)	事前学習	教科書 pp. 81~89 を読んで、「表現・鑑賞内容」とは何か、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。材料準備: クレヨン、カラーフェルトペン。								
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、造形表現・鑑賞内容について、他に説明できるようにしておく。								
第 3 回	造形表現の意味と子どもの絵画表現様式について (鑑賞)	事前学習	「絵画様式」「幼児、児童の表現様式」とは何か、文言の意味を調べておく。								
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、子どもの表現様式とその表現意味をまとめておくとともに、他に説明できるようにしておく。								
第 4 回	子どもの表現様式に対応した、絵画表現 (理論) / 子どもの表現 (演習)	事前学習	子どもの表現様式とその表現意味のまとめを確認しておく。材料準備: クレヨン、カラーフェルトペン。								
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。また、子どもが表現する意味を再考しておく。								

第5回	造形教育における授業づくりの意味と方法(理論)／形と色の構成、模様色々(演習)	事前学習	教科書 pp. 45～50、pp. 89～96 を読んで、「授業づくり」の意味と方法とは何か、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。また、子どもが表現する意味を再考しておく
第6回	造形的なものの見方や考え方・発想方法(理論)／自分マーク、四季のファッションショー(演習)	事前学習	教科書 pp. 74～80 を読んで、「造形的なものの見方や考え方(発想・構想、・・・)とはどのようなことか、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、「授業デザイン」の意味について、他に説明できるようにしておく。
第7回	造形要素・色と形と造形発想／自分マーク、家族の記念写真(演習)	事前学習	作成した自分マークの表情や性差、年齢差等の違いや描き方を考えておく。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。また、作成した自分マークを使った発想方法の考え方について確認しておく。
第8回	表現様式・フォビズムと造形発想／具象、再現的表現とフォビズム(演習)	事前学習	「表現様式、フォビズムと造形発想」を題材として「授業デザイン」すると、どの様になるか、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン。
		事後学習	授業の記録、作成した「授業デザイン分析表」を整理し、ファイルしておく。また、作成した「授業デザイン分析表」について、その授業デザイン方法を確認しておく。
第9回	表現主題と造形発想／今日の気持ち、こんな感じ(演習)	事前学習	造形表現としての「表現主題と造形発想」について考え、線を使った形を様々に描いてみる。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理しファイルしておく。また、「表現主題」を契機とした発想方法の考え方について確認しておく。
第10回	造形要素・材質(感)と造形発想／触り心地、色々／見本帳(演習)	事前学習	教科書 pp. 99～102 を読んで、「造形要素・材質(感)と造形発想」を題材として「授業デザイン」すると、どの様になるか質問できるようにしておく。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン。
		事後学習	授業の記録、作成した「表現活動」を整理し、ファイルしておく。また、作成した「授業デザイン分析表」について、その方法を確認しておく。
第11回	表現技法・変形(デフォルメ)／自分マーク、太ったりやせたり(演習)	事前学習	形の変形(デフォルメ)の意味や考え方を調べ、造形教育との関連を考えておく。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。また、変形(デフォルメ)的表現における発想方法、及び考え方と造形教育との関係について確認しておく。
第12回	表現様式・キュビズムと造形発想／ピカソの考え方で描く(演習)	事前学習	美術史における「キュビズム」の意味や考え方を調べ、造形教育との関連を考えておく。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。また、キュビズム的表現における発想方法、及び考え方と造形教育との関係について確認しておく。
第13回	立体・抽象的な表現様式(理論)／高く、安定した美しい立体オブジェ・塔(演習)	事前学習	立体・抽象的な表現とはどのようなものか、その内容や方法について調べ、確認しておく。材料準備：割り箸、輪ゴム、等。
		事後学習	授業の記録、制作した作品の写真を撮って印刷、整理し、ファイルしておく。また、立体、抽象的表現における発想方法の考え方について確認しておく。
第14回	表現方法・時間の経過／自分マーク 四コマ漫画 一形の変化、起承転結(演習)	事前学習	「表現方法・時間の経過を捉えた造形発想」を題材として「授業デザイン」すると、どの様になるか、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン。
		事後学習	授業の記録、作成した「授業デザイン分析表」を整理し、ファイルしておく。また、作成した「授業デザイン分析表」について、その授業デザイン方法を確認しておく。
第15回	授業のまとめと課題レポートについて／これが私自身の肖像―表現する最適な考え方、方法を使って―(演習)	事前学習	作成したポートフォリオを確認し、授業の内容や課題を捉えなおしておく。材料準備：クレヨン、カーフェルトペン。
		事後学習	課題レポートの作成